

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元学 現3年	67.5 ----- (1.00)	/	/	56.4 ----- (0.91)	/	/
	/			62.4 ----- (1.00)		
	/	/	62 ----- (1.00)	/	/	56 ----- (1.00)
R3正答率の全国比			0.96			0.97

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・「書くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において、平均正答率が県と全国を下回っている。「書くこと」においては、教師の提示するモデルに近いものは書けるが、様々な条件下で書く力（汎用性）が育っていない。
- ・「数と式」「資料の活用」の領域において、平均正答率が県と全国を下回っている。特に、「記述式」の問題では、数学的な結果を事象に即して解釈したり、判断の理由について説明したりすることに課題が見られる。
- ・学校の授業時間以外に、普段及び学校が休みの日の学習時間が全国を大きく下回っている。また、県との比較においても下回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「書くこと」の領域を取り扱う場面では、観点を示しながら複数回の推敲を行ったり、学級や学年全体で共有したりする場を設ける。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域については、使用語彙が増えるように、国語科としての課題の設定や、新出単語を用いた作文等に取り組みさせる。
- ・「数と式」の領域においては、事柄が成り立つことを文字式で表す場面で、計算の結果を振り返って読み取ったことを話し合ったり、成り立たないことの原因を計算結果から考えたりする活動を入れる。「資料の活用」の領域では、データの傾向を捉えて判断する場面で、判断の理由を生徒自身の言葉で書き、必要となるポイントをもとに修正する活動に取り組みさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習においては、学習意欲を高め、主体的に家庭学習に取り組むための手立てを講じる。具体的には、校内研修の中で、各生徒の習熟度に合わせた課題の出し方、点検、評価、未提出者の対応等を共通実践していく。また、家庭学習の充実に向け、Chromebookを活用した実践を推進する。
- ・家庭との連携を図るため、学力向上だよりや学校ホームページを中心に保護者への呼びかけを増やしていく。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元学 現3年	78.8 (1.16)			69.2 (1.11)		
		64.8 (1.04)			56.2 (1.12)	
			66 (1.06)			61 (1.08)
R3正答率の全国比			1.02		1.06	

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

学習状況調査【国語】から読み取れる実態

- ・学習指導要領の領域別では「読むこと」が全国平均を下回っている。
- ・4領域（話す、聞く、読む、書く、言語）において全国平均と比較しても突出して得意な領域や苦手な領域はない。
- ・「読む」領域の中でも選択式の正答率が低い。

学習状況調査【数学】から読み取れる実態

- ・領域別にみると、「関数」の領域が低い結果となった。
- ・また、問題別にみると以下の問題に課題がある。
3【図形】、4【関数】、6(3)【数と式】、7(2)【関数】、8(2)【資活】、8(3)【資活】
9(2)【図形】、9(3)【図形】
- ・説明に関する問題は、県や全国に比べて高いものの、無解答の割合も高い。

意識調査から読み取れる実態

学校という場所に登校し、周りの友達と仲良く授業を受けることはいいとは思いつつも、人前での失敗を恐れたり、自分が人からどのように思われているのか人目を気にしている。これらは人間関係が固定されている現況から出てきていることが予測される。人の意見を聞くことも低い傾向にあり、課題設定能力にも影響が出ているし、それらを解決する能力も併せて低い傾向にある。また、自己肯定感も低い傾向がわかることから日常生活でワクワクするようなことを期待することもなく、淡々とした生活を送っている生徒が多い傾向も読み取れる。ICT機器の利用については、マイナスな傾向はないが、自主的に取り組む課題についてはあまりうまく取り組めていない状況である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・全国的にも本校においても「読む」力が低いため向上に努めたい。
→具体的に、「読むこと」の中でも選択問題に力を入れる。そのために、文章の中のどの範囲から情報をえるのかを決定させたり、選択肢と本文を対応させたりすることを授業の中で指導したい。また、学習課題の設定を工夫して「深い読み」ができるように活動を仕組む。
- ・説明する力が弱い
→何をかいたらよいかわからないことが考えられる。
そのため、受け答えをする練習を授業の中に取り入れる。
また、問題の中で聞かれている内容を整理する活動を取り入れる。
- ・学級活動や道徳の授業を使って自己肯定感の高まるような題材を取り扱っていく。
- ・話し合い活動を増やすこと。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・新聞などの説明的な文章を読む機会を増やす。
- ・文学作品を読み慣れさせて、優れた描写に多く触れさせる。
- ・自己表現の場を設定する。(コミュニケーション能力を高める。)
- ・学校生活の中で、これまでに身につけた知識や技能を活用して、自ら行動できる力を身に付ける
→ 自己決定の場を設定する。
- ・生徒会など、生徒たち自らが発案した企画を日常生活に取り入れたりして、日々の生活に活力が持てるような取り組みをする。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元入学 現3年	67.9 (1.00)			66.2 (1.06)		
		59.7 (0.96)			50.6 (1.01)	
			65 (1.05)			50 (0.89)
R3正答率の全国比			1.00			0.87

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・記述式の無解答率や短い文であっても、分からない問題に解答しないという割合が高い。
- ・漢字の読みや敬語の種類など基本的な知識は習得しているが、文脈の中での意味判断や文章の前後を理解した上で答える問題に対する正答率が低い。特に、文学的文章で主語が明確でない動作が誰のものかを判断するなどの行間を読むことを苦手とする傾向がある。情報をつなげ、判断する力や文章構成など全体を読むことに課題がある。

【数学】

- ・表やグラフからデータの傾向を読み取ったり、規則性の問題において論理的に類推したりすることができていない。また、自分の考えをもち、文字式を用いて説明することや、根拠を基に筋道を立てて論理的に説明することができていない。
- ・1年前や2年前の学習事項の知識の欠如が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【国語】

- ・条件作文や文章のどの部分と問題が対応しているのかを考えさせる学習など情報をつなげる課題を設定し、取り組んでいく。
- ・文章を評価する観点を示し、情報を整理して説明させる学習にも取り組んでいきたい。
- ・言い換え表現や比喻表現を確認し、語彙学習の充実を図る。

【数学】

- ・学び直しの機会を意識的に設定して、既習事項の知識や技能の定着と理解の深化を図る。
- ・教材の研究と開発に努める。(協働学習ができないことを、いかに補うかを考える)
 - ア 生徒の興味を引きつける。
 - イ 教科書を読んだだけでは理解しにくい部分を、かみ砕いて説明したり、数学的活動を取り入れたりして具体的に考えさせ、納得させる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

【国語】

- ・日頃の声かけでなぜそうなるのかを尋ね、自分で考えさせる習慣を育てる。
- ・高校入試に向けた面談練習で文章構成を考えるように声かけを行っていく。
- ・主語を明確にし、誰の動作かを考えさせる機会を少しでも増やしていく。

【数学】

- ・ワークブック以外に、定期的にプリントによる宿題を配布し、添削する。
(記述を伴う問題を適宜、取り入れるようにする。)
- ・放課後学習会が始まったので、復習や質問の時間として効率的に学習させる。
(指導者に任せきりではなく、時々様子を観察したり、励ましたりする。)

【教育活動全体】

- ・校内研究で進めている学習規律や学習環境、課題やめあての設定などについて共通理解、共通実践を図る。
- ・一人一台端末の利活用を通して、学びの個別最適化を図る。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元入学 現3年	64.6 (0.96)			56.4 (0.91)		
		59.7 (0.96)			46.3 (0.92)	
			59 (0.95)			52 (0.92)
R3正答率の全国比			0.91			0.90

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】・言語理解に関する事項の定着が乏しい(敬語など身につけていない)。

- ・文脈から適切な意味を考えることができていない。

【数学】・本校は、全国及び県の正答率より低い。

- ・記述問題の無回答率が高い。率が高い。

【意識調査】

- ・学習面では、日常的に活用する機会が少ない生徒がたくさんいたので日常的に活用できるような授業を展開していくことが大切。
- ・普段から半数以上の生徒が計画的に学習をしていないことが分かった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【国語】・言語事項に関する復習の時間を取る。

- ・語らいを増やす。(難しい言葉の類義語を答えさせる)
- ・読み物は、主語の確認をする。

【数学】・読み取り問題や記述問題、情報活用問題(何のために学ぶのかわかっていない生徒がいるため)を単元末に取り組ませる。自分の思いや考えを各時間に設ける。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・自分の意見や考えを他者に伝える力が課題であるため、1分間スピーチを通して書く活動や発表する活動を朝の会や帰りの会で取り入れる。また、スピーチ活動を通して自己有用感を高めていく。

・純文学を読ませていく。

・通塾率が高いため学校外での学習時間が多いように見えるが、家庭での時間はスマホやゲームの時間が多く、家庭での約束事は守られていない。自分で考えて行動したり、自分の考えを堂々と発言したりする生徒が少ないため、授業以外の場面でも、他者との関係づくりを基盤に、思いを書いたり他者へ伝えたりする場を設定していく。キャリア教育を推進し、「何のために学ぶのか」や「自分の良さを伸ばすにはどうしたらよいか」など、生き方につながる話を朝の会や帰りの会、特別活動の中でも行っていく。

1 生徒の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元入学 現3年	61.7 (0.92)	57.0 (0.92)	57 (0.91)	54.6 0.88	40.8 0.81	51 (0.90)
	R3正答率の全国比			0.88		

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

国語科

- ・話合いの話題や方向を広く捉える力が弱いので、一部のことのみについて自分の考えを書いている。
(本校 41.2/県 51.2/全国 57.1)
- ・生徒質問紙の「目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている」項目では、9割の生徒がそう答えていた。これは、県や全国よりも高い。しかし、意見と根拠の関係をきちんと捉えて読んだり書いたりできていない。(19.6/22.3/24.8)
- ・語彙力が乏しく、情景描写の意味が分かっていない。(66.7/67.4/71.0)

数学科

- 基本的な知識や技能は身につけている。
- 資料の活用は県の正答率とほぼ同値である。
- ▲「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明すること」について、県の正答率より12.8ポイント低い。
- ▲図形の問題が全体的に県の正答率より5~13ポイント低い。特に、性質や条件を見出して表現したり、説明したりすることが苦手である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

国語科

- ・2段落構成で意見と根拠を書き分けさせる練習を入れ、意見と根拠の関係を理解させる。
- ・話したり書いたりするときに「言葉と表現集」を活用し、語彙量を増やす。
- ・相手や場面に応じて、敬体・常体を使い分けることや、適切な語彙や言葉遣いを習得できるよう指導を行う。

数学科

- ・習熟度別クラスを編成し、基礎クラスでは基本的な知識や技能の定着を目指す。標準クラスでは活用の問題を単元ごとに1, 2時間設定し、数学的に表現したり、説明したりする授業を行う。
- ・生徒の理解を深めたり、思考を促したりするために、授業中に教え合いや学び合いの時間を適宜とる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習部会を中心に推し進めている「810作戦」を徹底させ、生活のリズム安定と学習時間の確保を目指す。
- ・生徒質問紙の「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」生徒が86.3%なので、100%を目指して今まで以上に読書を推進したり、前進タイムの時間に実施しているICTを利活用したスピーチを活性化させたりする。
- ・小テストなどで8割未満の生徒については、昼休み等を使って学習支援を個別に行う。
- ・定期テストや章末テストで活用に関する問題を最低1問出題し、思考力・判断力・表現力を養う。